

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と連携しながら安全で安定した体調を維持して頂き、一人一人の性格や特徴を理解しながら要望に寄り添い、孤立せず、支え合いあえるような生活、又、その方の能力を生かしながらハリのある生活を支援できるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一市民として過ごせるよう理念を共有し合いながら対応している。今年も招待頂いた町内の敬老会に1名参加。毎年の中学校の文化祭も参加予定。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りの神輿渡御来て頂いたり、近所の中学校の文化祭にサンクナしている。末祭りや避難訓練には近所のかたにチラシを配り参加して頂いている。近隣のスーパーへの買い物、ヤクルト販売にも来てもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の体験学習を受け入れている。運営推進委員会で、日々の生活の関わり方等を説明したり、避難訓練などでは、実際に見学に来ていただく事で、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業活動を報告し、意見を頂いている。質問等に現状を説明し、理解して頂きながら、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがある時は、電話等で親切に教えて頂いている。最近は障害福祉課に車いす助成の件で問い合わせ相談した。特に新しい入居者の方の情報提供等には協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は定期的に勉強会にとりいれ、常に職員全員が周知していると思われる。緊急やむを得ない身体拘束も必要性は無かった。又、昨年の相模原の事件で防犯として玄関の施錠も検討中である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1月に「施設事業所における高齢者虐待防止」に参加したPの報告、3月に「施設従業者による虐待なのか判断に迷った事例」勉強会等定期的に行っている。言葉遣いや声のトーンで利用者様を萎縮させてしまう傾向があるので、気づいた時やミーティング時に注意し合いながら改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の中で「できる事」の声掛け誘導で自立支援を意識して支援している。 自立支援、成年後見制度は9月に成年後見センターのパンフレットを元に勉強会をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、都度質問があれば答えている。細やかな変更等も事務所からの書面、電話、来訪時やお便り等でお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望は申し送りや支援経過に記載し、入居者様からの要望等も申し送り職員間で情報を共有している。利用者様の要望を受け昼食時、隔月で寿司や外食等ができるよう継続されている。ご家族が直接言いづらい事項も外部評価のアンケートで記載して頂けるようになっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やユニットの懇親会で意見の他、常にユニットリーダー、CM、管理者、事務員は職員の意見に耳を傾けている。入居者様の食事や電化製品、物品等の交換について反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力や勤務状況を把握しながら、より以上のレベルアップや向上心が持てるよう、研修会参加や役職(手当に反映)への促しにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を流し要望で研修が受けやすいようにしている。又、職員一人一人の力量を見極めながらスキルアップできるよう研修受講の誘導をしている。どちらもミーティング時に研修報告をする事で再度、研修内容の確認を行っている。 今年から、初任者研修及び介護福祉実務者研修を受講する為の奨学金制度も開始した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前に行っていた他のグループホームの相互訪問を受け入れ、互いに参考にさせてもらった。又、年に2度位、グループホーム協議会の交流会に参加していたり、グループホーム協議会主催の毎月の研修会の参加でスキルアップを図っている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のコミュニケーションには注意を払い少しでも不安が軽減できるよう努めている。又、生い立ち等をご家族のご協力も頂きながら把握し、入居後の様子をアセスメントしながら少しでも早く、信頼関係ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や面談時、契約時等にご家族から色々情報や質問、要望等を伺っている。又、入居後の面会時等には入居後の様子を報告し助言を頂きながらご家族様と何でも話せるように信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談及び面談時等に困っている事を聞きながら、医療も含め支援している。都度、必要に合わせ		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とのコミュニケーションの中で住んでいた土地柄等教えてもらう事も多い。お手伝いをお願いしながら共に支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	奥様面会時には、食事介助、排泄介助の協力も頂いている。イベント等や外食も一緒に参加してくれている。通院にも協力を頂いたり、誕生日に居室でご夫婦で食事をした方もいた。精神的緩和の為に自宅外出にも協力を頂いた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人や知人との電話や面会の取次ぎを行っている。ご家族の面会の多いユニットだが、都度、近況報告を密に行い、ご家族との関係が途切れる事の無いよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者様の性格や特徴を把握しながら、一人一人が孤立しない様、利用者様同士、会話やゲーム、雑誌やテレビを見ながらコミュニケーションを図ったり、互いに助け合いながら楽しい時間を過ごせるよう過ごされるよう間を取り持っている。体調が悪い方を気遣ってくださる時も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数名の方がふきのとうで看取りをさせて頂いたが、数年たっても外出先でご家族に会った時はお互いに懐かしい、心地よい挨拶が交わされていると思われる。ここ数年、他の施設へ転院等での退居される方はいない。体調不良で入院後に亡くなった方々はそれぞれ葬儀等に参列させて頂いていた。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話の中から希望や意向を把握できるよう努めている。 外出、通院、買い物等はできるだけ要望に応じていたが、要望も少なくなっている。又、毎週及び要望時に買い物代行もしている。ユニット行事もできるだけ要望を取り入れ(特に昼食会)実践している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報やコミュニケーションの中でこれまでの生活歴や趣味等を追いながら、個別の支援、声掛け誘導、援助計画の作成に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時、介護保険更新時や心身状態の変化時に「できる事」「わかる事」のアセスメントでその方がたの有する力が発揮できハリアのある生活が送れる様、ケアプランにも掲げ、声掛け誘導している。各利用者様の一日の過ごし方はケアプラン作成時に作り、各居室に掲げている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した	医師、家族、看護師の助言をもとにしながら、月に1度、カンファレンスを行い、意見やアイデアを出し合って介護計画の見直しなどを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の様子や実践を記録、大事な部分は赤線を引いている。医療連携での支援経過、家族とのやり取り等の支援経過も記載しながら、申し送りや月に一度のカンファレンスで話し合いながら介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院外出時に買い物、ご家族の「毎日ヤクルトを飲ませてほしい」との要望に応じてヤクルト販売に来てもらう事にした。又、精神緩和の為の自宅外出の協力、本人の要望での歯科受診等、その時その時のニーズに合わせて対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を頂きながら避難訓練を行ったり、地域のイベント案内の参加で安全に豊かな生活を楽しめるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院は継続しているが、廃院の為の病院の変更での新しいDr.との関わりや以前、不満であった歯科の変更より、気に入った歯科受診等、ご本人とDr.の関係がより良く連携できるよう間を取り持っている。眼科での手術の際はご家族にも協力を頂いた。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師も含めた朝の申し送りで利用者様方の身体状況を報告し治療及び指示をもらっている。又、必要に合わせ、係りつけ医との連絡をし、薬の相談をしたり、受診する事も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は近況の健康チェック表、アセスメントやADL等の情報提供を看護師にしている。入院後は週1度位の面会や電話等で状態を把握しながら出来るだけ、早期に退院できるよう情報をもらいながら努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年は看取った方はいなかったが、利用者様の心身状態に合わせ、入居契約時に伺っていた重度化した際の意向について、再度、ご家族・主治医との話し合い決めている。終末期を迎えた時には、看取り対応について再度話し合い、希望されるご家族にはご家族の同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、避難訓練の際にAEDの使用方法や救命救急訓練を消防の方から指導を受けている。又、「異常時発生への対応」「緊急時119番通報」等のマニュアルが職員の見やすいところに掲げられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の施設全体の避難訓練では消防の方から指導を受けており、地域住民の方にも参加して頂き、協力頂ける体制を整えている。今年6月末には、地震による火災が夜間に発生した想定で訓練が行われた。又、年に数回の火元責任者会議を行い災害を意識できる体制を整えたり、毎月のミーティングでは火元責任者からの申し送りや注意事項に気を付けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握しながら、人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわない声掛けや対応に注意している。特に言葉がけはきつい時があり、ミーティング時にも話し合い注意をするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	通院時の買い物外出、買い物の要望、ヤクルト販売での選択購入等、できる限り自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は入浴をしたくない」「今は食事がしたくない」等、その方のペース(身体状況も含め)や要望にできる限り添えるよう日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に通院等の外出時の衣類には少しでもオシャレをするよう支援している。ご自分で着替えられる方にも、よそ行きがある事の声掛けをし身だしなみには十分気を付けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるようボスフルでの昼食外出、向えの公園やユニットで手作り弁当昼食会、すし出前や餃子パーティー等、少しでも満足いく時間を提供している。又、その方のできる能力に合わせ、オシボリ洗い、たたみ、食器ふき、もやしの芽取り、米とぎ等も手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日記録し、食事量が低下している方は栄養補助食品、寿司、甘酒、プリン等好きな食べ物や飲み物を色々と提供していた。水分は一日、1000cc~1500ccを目標においた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けで磨き残しの介助を行っている。口臭の強い方は液体消臭液を使用してもらっている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある方ばかりだが、排泄記録をつけながらトイレ誘導している。尿カテーテル設置されていても、頻回なトイレ要望、自分で抜いてしまう方もおり、都度、観察及び医療連携は行われている。転倒の危険性もあり、状態によりPTトイレを使用されている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りで排便の報告を行い相談しながら、処方されている下剤や整腸剤で調整しているが、思うような排便がなされず、市販のサプリメントの使用をしている方もいる。毎昼食時はバナナヨーグルト等を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援だが、拒否されたり、体調不良時は本人が納得される日に入浴して頂いている。(陰部の清拭を毎日行っている。自立されている方は温かいタオルと提供し自分で行ってもらっている。)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もリビングで居眠りしているのを見かけた際には、ご本人に確認し、自室でゆっくりと休んで頂くよう誘導しているが、夜間の安眠障害にならないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に申し送りをしながら、職員一人一人が利用者様方の処方箋で用法・目的等を理解するよう努めている。薬の変化時は必ず申し送り、経過観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や嗜好を考慮しながら、お手伝いをお願いをしている。台所仕事、もやしの芽取り、食器拭き、洗濯畳み、新聞畳みなどできることをお願いしている。天気を見ながら向かいの公園での日向ぼっこやドライブも支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの要望はほぼなくなったが、理容室外出、昼食外出、花見・紅葉など外出できる機会を設けている。個別要望の買い物は、通院帰りを利用しながら行ける範囲で近くのスーパーに出かけている。今年も町内会招待の敬老会の参加ができたり、月寒へサーカスの観覧や8月で閉館になる裕次郎記念会館にでかける事が出来た方もいた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きなお金を自己管理されている方もあり、買い物時は自分で支払いをしている。他にも数万円は持参し買い物時に支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	CMがご家族に電話をかけた際、少しでも寂しさが軽減できるよう電話口に出て頂いたり等、積極的にご家族や友人との電話の橋渡しをしている。手紙が来た時は御本人に確認したうえで分を読んであげたり支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットが明るい雰囲気になるように季節ごとに壁紙作りを行い、季節を感じてもらっている。テーブルには季節の花も飾っている。窓からは日本海を眺めたり、見事な朝日や夜の車のライトで心地よさを感じて頂けると思われる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に座りやすいソファが置いてあり、日に何度かは気の合った方々が楽しそうに会話を弾ませている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで過ごされていた家から、使い慣れていた物を持ってきていただいたり、家具やソファを持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように、張り紙をしたり、転倒防止のため、ベッド柵に鈴を付け、音で訪室できるよう工夫している。入浴時でもできることは行って頂き、出来ない部分を介助している。「出来ること、わかる来こと」のアセスメントを行いながら自立した生活の支援をしている。		